

## Members

### ゲストコンサートマスター

兒玉 恵子

### 1stヴァイオリン

足立 淳  
岡本 侑子  
尾上 香織 ※  
武智 久子  
田中 唱 ※  
富奥 史子  
星乃三友紀  
村田 千明

### 2ndヴァイオリン

足立 聖子  
石 抜 節 子  
伊 藤 大 輔  
浦 中 有 紀  
高 橋 弘 行  
龍野満里絵 ※  
月 田 理 代  
四 方 田 糸 織

### ヴィオラ

和泉希代子  
岩橋和江 ※  
佐藤寛子 ※  
龍野珠美 ※

### チェロ

坂本一生 ※  
龍野しずく ※  
馬原ひろみ  
森山誠一

### コントラバス

岡田尚子  
田中真紀 ※  
姫路夏子

### フルート

大林淳子  
熊谷沙織

### オーボエ

橋 徹  
松本聡子  
  
クラリネット  
岡本クミ  
福島由貴  
府高明子

### ファゴット

上田 宏  
柴田義浩 ※

### ホルン

クープス友美  
トウメイジョゼフ

### トランペット

福島敏和  
山口博子

### ティンパニ

永野 哲 ※

※は賛助出演(敬称略)

## お知らせとお願い

### ♪ 団員募集のお知らせ

ザ・シンフォニエッタでは、現在団員を募集しております。  
詳細は下記にお問い合わせください。

ザ・シンフォニエッタ代表：クープス 友美  
携 帯 090-7383-4953  
メー ル nayo0704-103@docomo.ne.jp  
ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

### ♪ 主催者からのお願い

1. ホール内の喫煙、飲食はかたく禁じられております。
2. 携帯電話等の電源、時計のアラームはお切りください。
3. 小学生未満の方のご入場はご遠慮ください。  
また、お子様がお静かにできない場合は、「親子室」をご利用ください。
4. 演奏が始まりましたら、ホールの移動、座席の移動をお控えください。

本日は、ザ・シンフォニエッタ第28回演奏会にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。  
よろしければ、アンケートにご住所、ご氏名をお書きください。第29回演奏会のご案内をお送りしたいと思います。

The Sinfonietta  
**ザ・シンフォニエッタ**  
第28回演奏会  
28th Concert

指揮 萩原 勇一

ヴァイオリン独奏  
鈴木理恵子  
Photo:Wataru Nishida

2015年9月6日(日)  
熊本県立劇場コンサートホール  
開場14:00 開演14:30

撮影:ユーツークラシカルレコーディング

主催：ザ・シンフォニエッタ

後援：熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 熊本日日新聞社 NHK熊本放送局 RKK TKU KKT KAB FM791 FMK

公式ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

## Profile



### 指揮 萩原 勇一 *Hagihara Yuichi*

鹿児島県出身。父親の仕事の関係で熊本に移り住み、聖母幼稚園、泉ヶ丘小学校に通う。帯山中学校及び熊本商科大学付属高校（現・熊本学園大付属高校）卒業。  
その後、鳥根大学農学部環境保全学科を経て熊本県庁に入庁し農政部で働くも、指揮者への夢を諦めきれず、30歳でくらしき作陽大学音楽学部に入学。2005年3月同大学指揮専修卒業。これまでに指揮法を志賀保隆氏に師事、故・岩城宏之、田中一嘉、山下一史、J.リプリー、鈴木孝佳（TAD鈴木）各氏に学ぶ。  
管弦楽、オペラ、吹奏楽、合唱、邦楽合奏など、岡山県内外で幅広いジャンルの指揮活動を行うほか、作・編曲活動も行なう。  
現在、エスパス管弦楽団、津山交響楽団、邦楽ラボ、オペラプラザ岡山、Okayama Civic Hall Brass、やかげ混声合唱団の常任指揮者、岡山市消防音楽隊の講師を務める。  
「今回このような形で、また熊本に来ることが出来て本当に嬉しいです。」

### ヴァイオリン 鈴木 理恵子 *Rieko Suzuki*

桐朋学園大学卒業後、23歳で新日本フィル副コンサートミストレスに就任。04年より14年2月まで、読売日本交響楽団の客員コンサートマスターを務めた。桐朋学園大学在学中は篠崎功子、インディアナ大学でJ.ギンゴールド、夏季セミナーなどでH.シェリング、N.ミルシタイン、M.シュヴァルベの各氏に師事。97年からはソロを中心に活動。全国各地でのリサイタルの他、主要オーケストラとも多数共演。クラシックに留まらず「東洋と西洋」をテーマに独自の活動を展開。神奈川県立音楽堂のレジデンスとしての斬新な公演は話題を呼んだ。スウェーデン・マルメ市立歌劇場の客演コンサートマスターとしても定期的に招かれている。  
04年に国際交流基金等の助成を受けニュージーランド・ツアーを行う。その後もバンコク、北京、ジョクジャカルタ、プノンペン、インドなど各地の音楽祭等に招かれ、いずれも大絶賛を博している。



著名な作曲家たちからの信頼がとて厚く、多くの作品の初演に指名を受けている。  
これまでに6枚のCDを発売。2013年には夫でもあるピアニスト若林顕とのデュオによる「ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ全集」（キングインターナショナル）を、2014年6月には、若林顕とのデュオで「シューベルトヴァリアン」（オクタヴィアレコード）を発売。  
08-09年・14年横浜にて、2010年掛川にて、音楽とアートがジャンルを超えて交わる「ビヨンド・ザ・ボーダー音楽祭」を自らプロデュース。クラシック、雅楽、美術等がボーダーレスに一体となる斬新な内容が各界で評価されている。  
公式サイト <http://riekosuzuki.com/>



### ゲストコンサートミストレス 児玉 恵子 *Keiko Kodama*

エリザベト音楽大学音楽学部器楽学科管弦打楽器コースヴァイオリン専攻卒業。  
その後、ウィーンにて研鑽を積む。ヴァイオリンを赤沢和美、守屋美枝子、中村英昭、太期晴子、エリーナ・スリス、ゲルノート・ヴィニョッフアー各氏に師事。  
第14回倉敷児童音楽コンクール金賞。第50回福山音楽コンクール入賞。  
青木カナ氏のレコーディング参加。サンパウロ美術館で声楽家イネス・シュトックラー氏と協演。  
サンパウロ大学シュロモ・ミンツ特別マスタークラス受講。

### 管弦楽 ザ・シンフォニエッタ *The Sinfonietta*

1986年に結成された小編成のアマチュア・オーケストラ。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなどの古典派の曲を中心としながら、ロマン派、近代の曲なども演奏している。アンサンブルを楽しむため、小編成（50人以下）の特性を活かした選曲、演奏活動をしている。これまでに共演した主な音楽家は、指揮者では本名徹二、山下一史、岩村力、藤崎凡、久保田悠太香、船曳圭一郎などの各氏、ソリストでは安永徹（Vn）、堀正文（Vn）、篠崎史紀（Vn）、小野富士（Vla）、O.ボルヴィツキー（Vc）、小林道夫（Cemb）、若林顕（Pf）、合志知子（Pf）、吉田秀晃（Pf）、青柳晋（Pf）などの各氏で、すばらしい指導者・共演者に恵まれ充実した活動をしている。  
最近では2011年10月に若林顕氏の弾き振りでピアノ協奏曲3曲を一夜で演奏。また2012年9月には特別演奏会として歌劇「カルメン」演奏会形式に挑戦。山下一史氏指揮のもと県内外の歌手の方々と共演。合唱団も一般から募集し、初のオペラ演奏会は好評を得た。2014年2月には原点に帰りモーツァルトやベートーヴェンといった古典の交響曲を船曳氏指揮で演奏し小編成オケならではのアンサンブルを追求した。  
ホールでの演奏会以外では、2004年11月にNHK-BS2の番組において熊本城前での演奏が全国に放映された。2008年よりNPO法人オーケストラ創造主催の「マロ塾」に参加し、篠崎史紀氏の指導を受ける様子を一般に公開、またSTREET ART-PLEX KUMAMOTOに参加し、熊本市中心市街地の商店街の中でフルオーケストラで交響曲を披露するなど、一般の方にもオーケストラに親しんでいただけるような活動にも取り組んでいる。



撮影：ユーツクラシカルレコーディング

## Program

### ベートーヴェン／「プロメテウスの創造物」序曲 作品43

### ハイドン／交響曲第101番 二長調「時計」

- 第1楽章 Adagio - Presto
- 第2楽章 Andante
- 第3楽章 Menuet
- 第4楽章 Finale : Vivace

～ 休憩 ～

### ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

- 第1楽章 Allegro ma non troppo
- 第2楽章 Larghetto
- 第3楽章 Rondo

指揮：萩原 勇一  
ヴァイオリン独奏：鈴木 理恵子

## ごあいさつ

本日は、ザ・シンフォニエッタ第28回演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今回は古典派の作曲家、ハイドンとベートーヴェンの作品に取り組みました。「古典派」と聞くと少し格式張ったイメージがありますが、ハイドンの通称「時計」では、2楽章で時計の秒針を表したような音が刻まれます。初めは穏やかに聴こえますがそのうち狂ってくる様子も表現されてきます。これは一例ですが、このように古典派の音楽は様々な事象・現象を音譜で表すユニークさも魅力のひとつだと思います。今回も約210～220年前に作られた楽曲に向かい、色々と発見をしながら練習を重ねて参りました。

本演奏会では、指揮に熊本にもご縁のある萩原勇一さんをお迎えしました。萩原さんからは豊富な指揮経験の中から楽曲への取り組み方や練習方法を教えて頂き、また、私達の可能性を引き出して下さり楽しく練習をさせていただきました。

メインプログラムのヴァイオリン協奏曲のソリストには日本国内外で活躍中の鈴木理恵子さんをお迎えしました。この楽曲は有名なヴァイオリン協奏曲の一つですが、独奏、オーケストラ共に作り上げる事が難しいので、意外に演奏される機会が少ない曲です。今回、鈴木さんが快く引き受けて下さり、この楽曲を演奏できることを大変嬉しく思っています。鈴木さんの奏でられる音楽の素晴らしさは、会場の皆様も間違いなく感じていただけたと思います。

本日はこれらの演奏家の方々と一緒に一曲一曲大事に演奏いたします。会場の皆様にも最後までご堪能頂ければ幸いです。

ザ・シンフォニエッタ代表 クープス 友美

## 曲目解説に代えて ～指揮者 萩原さんとソリスト鈴木さんを囲んでの座談会～

——まず指揮者の萩原さんに、今回演奏される前半のプログラムについて語って頂きます。今回のプログラムは、アマチュアではあまり演奏される機会のない曲が並んだという感じがしますが、このプログラムをご覧になってどんな風に感じられますか。

萩原さん：オーケストラの考え方や気持ちが良いと表れたとてもいいプログラムだと思います。コンチェルトで閉める、というのがとても真面目な、だけど純粋に音楽と向かい合っているという姿勢が伺われる感じがします。

### ●ベートーヴェン／「プロメテウスの創造物」序曲 作品43

—— 題名にある「プロメテウスの創造物」とは何のことでしょうか。

萩原さん：プロメテウスというのはギリシア神話に出てくる火を盗んだという神様ですよね。その創造物と言われるだけあって烈火の如く、曲中のffとppの対比にそれが現れています。

—— この曲の聴かせどころを教えてください。

萩原さん：初期の作品ながら既にベートーヴェン節満載ですよね。若いながらもひらめきに満ちていて、ベートーヴェンの天才さを感じます。その後につながるロマン派へと向かうベートーヴェンの情熱が表れているようにも感じます。

### ●ハイドン／交響曲第101番 二長調「時計」

—— ハイドンは音楽史上でも重要な作曲家なのに、今ひとつ影が薄いように思われますが…。

萩原さん：本当にそう思います。過小評価されすぎですよ。これ、特に日本における特徴ではないでしょうか。小洒落っていて高尚な、貴族受けのする音楽は日本人にはあまり好まれないのかな。一度その扉を開けてしまうと、もうそこから逃れられないようなそんな魅力を持った音楽ですが、でもその扉を開ける機会が日本では少ないんじゃないかな。

—— 1楽章の序奏。何か不気味な感じがするのですが。

萩原さん：ハイドンはあえてもったいをつけるような序奏をつけることがあります。そのあとにジョーク連発の音楽を繋げたんですよ。もしここがなかったら、軽い音楽になってしまいますから。また、あの当時ハイドンの音楽を聴いたのは、庶民ではなくて貴族でした。音楽に集中しない人に対して耳を引くためにもこういう序奏を置いたんでしょう。

—— 速いテンポになってからはどんな特徴があるのでしょうか。

萩原さん：律動感あふれるところで突然 пауゼがあって止まったりして…先ほども言ったように音楽に集中しない人に対しては、変わったことをしないと振り向いてくれないので、人を黙らせる仕組みは多いと思います(いい意味で)。音楽の魅力を知り尽くしているハイドンの手法。肩の力が抜けますよね(これもいい意味で)。

—— 第2楽章は、有名な“時計”のモチーフが出てくる楽章ですね。正確に時を刻むような。

萩原さん：でも、働きたくない“時計”ですね。いつも正確というわけではなく、時計だっただけでいるときもあるし。(笑)いろいろな部品で構成されている時計のように、いろいろな個性で構成されている。8分音符が「正確にリズムを刻めよ」と言っているのに、きれいなメロディーがスルスルリと逃げていく様に感じるんです。

—— 第3楽章はメヌエットですね。萩原さんのイメージではどのような音楽なのでしょうか。

萩原さん：まさにウィーンの音楽です。優雅とでも言いましょうか。純粋に音楽を表現しているハイドンが見え隠れします。そして途中で出てくるトリオ!こんな曲、他の人では書けなかったでしょう。聴く人を飽きさせないハイドンのアイデアではないでしょうか。弦楽器は和音を一切変えず、フルートだけが響きを変えていく。そこに金管楽器も交えて合の手を入れる。あのトリオはハイドンのサービスですね。

—— 第4楽章は比較的短いように思われるのですが、どんな楽章なのでしょうか。

萩原さん：短い中に、曲想ががらっと変わったり、フーガが出て来たりと、変化の大きい楽章で、ハイドン語法が目一杯盛り込まれた曲です。「主題は逃さずに変奏がこんなに出来るんだ、俺はこんな手法で変奏できるんだ」と。

—— 最後に本日お越し下さったお客様に、ハイドンの魅力を再度お願いします。

萩原さん：笑顔で聴いて下さい。そしてぜひともワクワクして聴いて下さい。私たちもワクワクするような演奏を目指します。

### ●ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

—— それでは次に後半のプログラム、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲についてヴァイオリニストの鈴木理恵子さんにお伺いします。名曲と言われるこの曲が演奏会に取り上げられる機会が少ないのはなぜでしょうか?また、曲に対する想いなどもお聞かせください。

鈴木さん：ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲は、数あるヴァイオリン協奏曲の中でも最高傑作と言われますが、「意外なほど演奏される機会は少ない」とも言えるかもしれません。曲の長さをとってみても約45-50分という大作であるということもありますが、演奏すること自体が技術的に難しい上に、精神的には自我の極限を超えるような精神力を要求されるということが、大きいのかもかもしれません。自我が出てしまうと曲の素晴らしさを壊してしまう、そしてまさに自分の内的なものの全てがさらけ出されてしまう。演奏するにはかなりの勇気が要るとも言えますが、また、この最高傑作の偉大な音楽に身を委ねたいという様々な気持ちが葛藤、交錯するからこそ、なかなか踏み切れないのかもかもしれません。また同時に、私をはじめ全てのヴァイオリニストにとって最終的に目指したい、大きな目標である究極のヴァイオリン作品かも知れません。ヴァイオリンパートもオーケストラパートも無駄をそぎ落とし、シンプルな中にも追い求めれば追い求めるほど曲の奥深く、奥深くへと入っていく、それこそが名曲中の名曲と言えるのではないのでしょうか。

第3交響曲「英雄」後、第4交響曲と同時期に作曲されたベートーヴェン唯一のヴァイオリン協奏曲は、激しさよりもヴァイオリンソナタ「春」や交響曲第6番「田園」のような穏やかさに終始包まれ、第2楽章など、深い祈りを捧げるかのようです。

—— どういうところに気を付けて演奏をされていますか?

鈴木さん：やはり自我がでないように、曲の素晴らしさを極力壊さないように、忠実に表現をできるようにと心がけています。

—— この曲の難しいところは?

鈴木さん：冒頭から最後まで精神力でしょうか。

—— ザ・シンフォニエッタ、および聴衆の方へのメッセージをお願いします。

鈴木さん：ザ・シンフォニエッタの皆さんは、音楽を愛し、慈しみ、生き生きと演奏していらっしゃる素晴らしいオーケストラです。幸せなことに、今までの人生の中で何度か演奏させていただいたことがあるベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲ですが、弾けば弾くほど、その偉大な曲に圧倒されます。今回、素晴らしいザ・シンフォニエッタの皆さんと、初めてご一緒させていただく指揮者の萩原勇一さんと共に、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を演奏出来る事を幸せに思い、そして心より楽しみにしております。ヴァイオリン対オーケストラというよりは、室内楽的な、ソロとオーケストラの緻密な対話を目指したいと思います。ご来場いただきました皆様にも、曲の素晴らしさを少しでもお伝えできますように、心をこめて演奏させていただきたいと思っております。お楽しみいただけましたら幸いです。